



在京古高同窓会会報 第31号

〒113-0034 東京都文京区湯島3-20-9-707 佐藤清勝税理士事務所内 在京古高同窓会事務局 (03) 5818-2673 FAX (03) 5818-... 発行責任: 春田 明 編集長: 亀井 明 印刷: (株)ケーヨー

皆さんからの 活発なご意見を

会長 三浦 澄能



今年の総会は、あまり暑くない時期にという会員のご希望に沿い、役員の方々の努力により一ヵ月早めて六月末に開催することにしました。皆さんとお会いできますことを楽しみにしております。

さて、会長として同窓会について考えていますことを述べて、皆さんからのご意見をいただきたいと思ひます。

わが同窓会は、会社などのタテ型組織と違い、卒業年次別の同窓会の連合体のようなものと認識しています。ですから同窓会の発展を目指すには、先ず同期の会が如何にムラなく作られているかにかかってきます。その上で、全年次の会員交流の機会が年一回の総会時だけでなく適宜組み込まれるようになれば、同窓会全体の高揚が図られるものと考えます。

今の時代、「同窓会」のアイデンティティー効果は、「母校を同じくする」という一点だけに求めても

弱いと思っています。母校卒業後の社会生活の中で同窓会に何を期待できるのかに応え、皆さんが同窓会の持つ意味に共感できるようにできるだけ参加の効用を示すことが肝要であると考えています。

そこで、私が望んでいることとして、一つには年次毎の同期会をしつかりと運営していただくこと。年次会のできていないところはお互いに呼びかけあつて懇親を深め、幹事さんを同窓会役員として送り込んでもらうこと。

もう一つは、個人でもグループ有志でもよいのですが、自分の時間的余力を社会に提供する行動として、同窓会員にも誘い合える社会奉仕つまり「ボランティア活動」に関わりをもつてみることに。これは年齢や社会的立場などに全く関係なく自由に行動でき、また義務や義理にこだわることもありませんから、先輩後輩の別なく呼びかけられる筈です。そして同窓会の中で情報化されれば、目的機能を持ったネットワークとしての存在を示すことになるでしょう。同窓会の集まりで話題が広がり、そこから同窓会仲間の結合に新たなエネルギーが生まれてくるに違いないと思つているのですが。

私もときどき盲導犬育成ボランティアに参加していますが、そのときはとても新鮮なバイタリティーを感じるものです。

在京同窓会メモ

- ・会計年度は6-5月、年会費は2,000円です。会の健全運営のため、同封の振替用紙での納入をお願い致します。
・次回会報第32号は2004年1月1日発行予定、原稿は常時受付。

問題は、どんな糸口というかタネを見つめるかにあります。私はごくさやかなものでよいと思つています。皆さんでぜひアイデアを持ち込んでいただきたいものです。ただ、情報を受発信する方法として年二回の会報では物足りないでしょう。Eメールやホームページのような伝達手段が必要となります。

へこうしたことは本来の同窓会活動から外れる」ということであれば、役員会とは別に運営してもよいでしょう。でも、こうした行動が広がって行けば同窓会のタテ・ヨコの連帯にきつと役立つに相違ないと確信するものです。古高同窓会のメンバーとして世のため人のために奉仕をし、それがやがて広い視野での同窓会活動の一つに発展すれば、念願の会員増強と古高魂の発露にも結実するだろうと望んでいる次第です。
(当方宛 fax:03-3303-8003、メール nitura-sumi@mva.biglobe.ne.jp 変更しています)

こ 挨拶

古川高等学校校長 二宮 景喜



梅雨入りも間近ですが、大崎地方ではまだまだ緑の美しい快適な季節が続いております。在京同窓会の皆様にはご清祥でお過ごしのこととお慶び申し上げます。

古高は今年から全学年六クラスとなり、生徒数七一五名でスタートしました。二・三九名の新入生も学校にすつかりとけこみ、古高生らしくなつてまいりました。

最近の学校の様子ですが、四月に行われた伝統の対築高定期戦では圧勝で連覇を遂げ、それ以来、ソフトボール部の選抜大会での県優勝、野球部、バスケット部、バドミントン部の地区総体優勝など、運動部の活躍が続いております。今月の県総合体育大会では、さらなる活躍が期待されます。

学習の面では、今年から毎日、

四五分授業を七時間行つており、三年生の課外も大幅に実施回数を増やしました。今年の大学入試で東北大と東北学院大に、現浪あわせてですが、比較的良好な結果を出せましたのでこれをステップに生徒にますます実力をつけさせて、進路の面でも、地元や同窓生の皆様の期待にお応えしたいと思つております。

「文武両道」は本校からはずすことができない看板です。部活動での勢いは、学業にもよい効果を及ぼします。そこで、どの学年でも、一日の中に「学習」と「部活」を両立させることを強調して指導しているところです。

さて、ご存知のように、少子化などの社会変化の中で、さまざまな教育改革が進み、学校も変わらざるをえない状況にあります。本校では、宮城県の高校将来構想のもとに、古高の未来を考えながら、新しい学校作りについて今、鋭意検討中です。有為の人材を多数輩出してきた本校の伝統を活かしながら、地域の中心校としての新たな発展を目指してまいりますので、同窓生の方々には、今後とも熱いご支援をお願いする次第です。

在京古高同窓会総会は例年七月末の日曜日ということで開催日が定着しておりますが、今回思いきつて見直しの上、猛暑を避けて一ヶ月くり上げることとしました。別欄にも案内がありますが、間違いのないようお願い致します。

平成十五年六月二十八日(土) 十二時開始

お知らせ
平成15年度 在京古高同窓会定時総会・懇親会
【日時】平成15年6月28日(土) 12:00~16:00
【会場】神楽坂「エミール」
【会費】8,000円
【講演講師】小嶋 進氏(昭和47年卒)
【演題】「挫折乗り越え丸の内」
【交通案内】地下鉄東西線 神楽坂駅 徒歩2分(出口1)
地下鉄有楽町線 飯田橋駅 徒歩13分 JR中央線 飯田橋駅 徒歩13分
神楽坂 財団法人 東京都福利厚生事業団 〒162 東京都新宿区赤城元町1-3 エミール 0817 TEL 03-3260-3251

母校の今

近況報告



古高同窓会会長

野村 喜太郎

在京同窓会の皆様、お元気で活躍のことと存じます。今年から総会が六月に開催とのこと、真夏を避けての開催で出席者への気配りをいただき感謝申し上げます。

昨年の叙勲では在京同窓会の元副会長遠山仁一氏(高二回卒、建設省)勲三等瑞宝章、今年春の叙勲では仙台の加藤茂氏(中四十二回卒、警察)、古川の斉藤栄一氏(中四十六回卒、土地改良)のお二人が勲五等瑞宝章を受章されました。長年のご功績に対し、敬意と受章に対し祝意を表します。

財団法人古高育英会に対して高九回卒有志の方々からご寄付をいただき、苦しい運営に役立たせていただきました。九古会として今後も続けて下さることとお話をいただき有り難い事と感謝申し上げます。

三本木町桑折の一、二ヘクタールの学校林については下刈り等除伐し管理指導には中四十一回卒、同窓会監事の佐々木龍樹氏にお願いし万全を期しております。

古高は現在二学期制で毎日七時間授業とし、補習授業も多く学力

向上を目指し、着々とその成果を挙げ、一年一年進学率も上昇して参りました。公立高校として進学も部活も成績を上げるよう、伝統の文武両道に先生方と生徒一体となつて取り組んで居りますことは頼もしいことです。

四月発足の日本郵政公社の高橋副総裁(高十回卒)が四月二十五日古川郵便局を視察に訪れ大崎、栗原、登米の局長さん方を前に訓示されたこと大崎タイムズで拜読、東海地方に続いて二回目の視察の由、同窓生として今後の益々のご活躍に期待しご報告とご挨拶いたします。

本部同窓会事務局だより



事務局長 清野 千秋

在京古高同窓会の皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。また日ごろから本校同窓会へのご支援、ご協力に對しまして御礼申し上げます。

さて古高の近況であります。ここ二、三年続いた大幅人事異動により教職員が一新され新しい古高に向かい躍進しつつあります。反面卒業生にとつては、母校に來ても顔なじみの先生がいないう寂しいという面もあります。

また少子化に伴う学級削減も今年で完了し、全学年六年級規模となりました。

四月二十五日には恒例の対築館高校定期戦が行われ、昨年に続き9勝2敗の圧倒的強さで優勝いたしました。特に今年は築館が男子校(平成十七年度に築館女子高と合併)として自校会場で実施する最後の定期戦ということもありかなり意気が高揚しておりました。おまけに最初の種目である綱引きが2対0で古高が敗退したので心配いたしました。結果として杞憂に終わりました。

本校も地域をリードする拠点校を維持すべく様々な改革を実施しております。進学校としていかに生徒の進路を実現させられるか一つの方法として学力向上を目標に掲げ、教職員共通理解の下に努力しております。授業が週五になり、時数確保のため七時間授業となり、放課後課外も六月からは八、九時間目を予定しています。今年の進路状況については別表のとおりです。国立現役合格者数は昨年には及ばなかったものの東北大9名(現役3名、東京芸大2名合格など大いに頑張ってくれました)。

昨今の情勢を反映させ、学校や第三者による学校評価の実施を予定しています。このことよって学校自身の改善や地域に開かれた学校を目指しております。

本校同窓会総会及び新年会は例年になく多くの会員の方々に参加していただき盛会になりました。特に幹事学年の高九回卒の方々によるところ大でありました。県内

に同窓会各支部が十五支部ありますが、例年総会等を開催しているは五つです。休止している支部の再開と、若い会員の参加が本部の課題となっております。新規卒業生が同級会を開く場合夏の総会に重ねるように呼びかけたいと思っています。

平成十四年度東京蛍雪賞をいただいた二名の進路は以下の通りです。

平成十五年度春の叙勲者で、旧中四十二 加藤 茂氏、旧中四十六 斉藤 栄一氏二名が勲五等瑞宝章を受章しました。本当におめでとございませう。その他に受賞者がいらつしやいます。たならば事務局までご一報いただきますようお願いいたします。さて今年には本校同窓会の会長始め各役員の方々の改選の年度に当たります。総会にて決定されますので、結果につきましては次期の機会に掲載いたしたく存じます。

平成14年度 進路状況 (現役内数)

国立大学	
大学名	人数
北海道	1
弘前	2 (1)
秋田	2 (1)
岩手	3 (2)
東北	9 (3)
山形	7 (7)
福島	5 (4)
宇都宮	1
千葉	1
東京芸術	2
横浜国立	1 (1)
金沢	1
合計	35 19

公立大学	
大学名	人数
はこだて未来	1 (1)
秋田県立	1 (1)
宮城	4 (4)
高崎経済	3 (3)
都留文科	2 (1)
合計	11 10

公立・私立短大	
人数	
5	(5)
専門学校	
38	(38)
就職	
公務員	3 (3)
民間、他	14 (14)

私立大学	
大学名	人数
札幌	2 (2)
札幌学院	5 (5)
酪農学園	3 (2)
盛岡	6 (3)
東北学院	92 (75)
東北工業	16 (13)
東北福祉	10 (7)
東北薬科	3 (2)
石巻専修	20 (17)
東北文化学園	13 (13)
東北芸術工科大学	3 (3)
国際医療福祉	3 (2)

私立大学	
大学名	人数
駿河台	1 (1)
独協	1
文教	2 (1)
青山学院	1
北里	1
工学院	1 (1)
国学院	1 (1)
国士館	1 (1)
駒沢	1 (1)
芝浦工業	3 (1)
専修	7 (4)

私立大学	
大学名	人数
大東文化	1
拓殖	1
中央	4
帝京	6 (3)
東海	2
東京経済	1
東京工科大学	2 (2)
東京農業	1
東京理科大学	5
東洋	4 (3)
日本	12 (6)
法政	4 (1)

私立大学	
大学名	人数
武蔵工業	1
明治	8 (2)
明治学院	2 (1)
立教	2
早稲田	1
神奈川	6 (1)
南山	2 (1)
同志社	1
立命館	4
関西	1 (1)
合計	267 176

過卒者数は判明した分、私立は延べ人数です

東京蛍雪賞

生徒会活動及び部活動を顕彰する「東京蛍雪賞」は本年、第6回目となりましたが、去る三月一日に行われました卒業式に、本会を代表して曾根副会長が出席し、鈴木大輝（生徒会長）・齋藤雄大（応援団長）両君に授与されました。

東京蛍雪賞を授与されて

鈴木 大輝

私が東京蛍雪賞のことを知ったのは二年生の時でした。当時の生徒会長と応援団長が東京蛍雪賞を授与された時のことを今でも覚えていますが、その姿は、何か特別な儀式を行っているように見えました。それは古高独特のオーラを放っていました。授与された一人は、満面の笑顔を浮かべていたことを覚えていますが。

確かに先輩二人は、各行事や生徒全員を一致団結させたりと、色々なことを一所懸命やっていたのだから授与されたと思いましたが、ですが、私は東京蛍雪賞を授えられるような人物になれるだろうかと思っていました。

そこで私は三年生になってから、古高を動かす人物、誰からも信頼される人物になろうといった目標を立て、生徒会長という重荷を担って来ました。その努力の甲斐あってか定期戦では勝利をし、古高祭りでは過去二年間で一番盛り上がったと思っっています。こうして

ことが今年私が東京蛍雪賞と呼ばれる素晴らしい伝統ある賞を授与されることにつながったのではないかと思います。

私にとって東京蛍雪賞は、古高での三年間の思い出、古高の生徒会長として頑張ったあかしとして一生大切にしていきたいと思っっています。

古川高校応援団長として

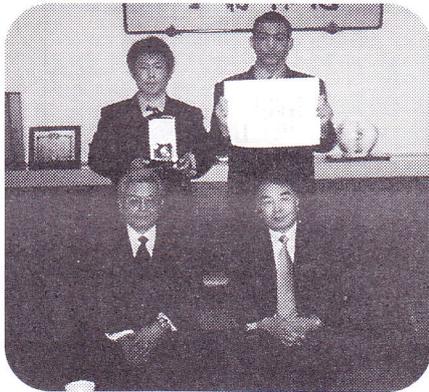
齋藤 雄大

東京蛍雪賞。この賞状を見てみると、古高で過ごした三年間の日々が思い出される。この賞をいただくことができたということは、ついに団長として認められたのだと、とても嬉しく思う。自分は団長という役割を任されたときから本当の意味での団長になるよう努力してきた。名ばかりの団長になるのは嫌だった。

今の古高は何事にも冷めてしまっている気がする。行事があつて盛り上がりはするが何か足りない気がした。それは団結力ではないかと思ひ、団長としてこれを何とかしたかった。それにはまず、団員から指導する必要がある。声出しから始め、エール、太鼓ととにかく練習した。大勢の前で恥ずかしさを捨てるため屋上ですることもあった。

自分は応援団の幹部なのだと自覚することにより何かが変わるのではないかと思つて行つた練習だった。事実、応援団幹部の目は少しずつだが変化していった。「やらされているのではなく、自分が進んでやっている」一人一人がそう

思うことが何より大事だった。その結果、定期戦は大勝利であった。古高全体が一つになった。嬉しかった。とにかく嬉しかった。一人で勝つたのではなく、皆、仲間です。しかしその定期戦がなくなつてしまふという。とても惜しい。



後列左から 齋藤君、鈴木君
前列左から 曾根副会長、二宮校長

同級会組織化の難しさと それに代わりうる 「接点」の模索

55年卒 亀井 明

比較的若い世代では同級生のつながりが非常に希薄なものになっています。高校生活は三年しかありませんし、私の場合ですとクラスも八クラスでしたので同級でも顔と名前が一致しないケースは多

数しました。同じクラスでも全く口をきいたことがない人間同士も多数いたと思います。まして、クラブで一緒でもなく、クラスすら一緒になつたことのない同級生は「同じ時期に同じ学校に通つていた他人」なのです。「古高」をネタに接近してくる人は、むしろ怪しい感じがします。

では接点を共有している人だけでいいから同窓会に参加するよう呼びかけてはどうか?となりませんが、そうはいかないのです。それならその接点を共有している人間だけで集まればよいからです。あえて、接点のない他人である先輩後輩がいる場に行く必要はないのです。接点を共有した小グループは多数あるでしょうが、あえてそれが集まる必然性はないのです。これが同窓会の前提としての同級が組織化されず、比較的若い世代で同級会が一度も行なわれないことがない理由でもあります。

現に昭和三〇年代後半以降の学年で、同級組織がある学年はほとんどないはずですが、つまり、同窓会の発展のためには同級組織が必要だと考えると、そもそも同級組織ができないのでは同窓会の発展は諦めなくてはならないことになりそうです。同級組織を前提としない同窓会ということになります。同級、先輩、後輩という括りを超えた仕掛けが必要になってきますが、ここが難しいところです。

接点の例として私自身のことからヒントになるかと思われまふ。私は、同窓会活動よりもそういった集まりの方に頻りに顔を出しますし、むしろ楽しく感じています。具体的には、インターネット上で

知り合つた趣味が共通な人たちとの様々な集まりに参加しています。最も頻りに参加するのはイギリスのあるロックミュージシャンのファン集まりです。まさに「蛇の道は蛇」で、そこで得られる情報の密度は半端ではありません。年三〜四回の会報発行やコンサートがあれば一緒にいたり、新しいアルバムが発売されればみんなでコメントを出し合うというものでまさにここでもしか有り得ないような濃密な時間です。二〇代後半から四〇代後半の人たちです。

また、HPの掲示板に頻りに書き込んでるのは、私が所有する車種のオーナーサイトです。年二〜三回、OFF会と称して集まります。そこでの情報もまさに「蛇の道は蛇」情報です。ここは二〇代前半から四〇代前半といったところで平均年齢は低いですが、もうひとつ、温泉好きのサークルがあります。これは日本全国に会員がいる大きなものです。年一回の総会には全国から温泉好きが集まります。知識レベルが高い人たちが多く非常に勉強になります。(頭が活性化します)会員は二〇代から七〇代の老若男女です。入会した人が後を絶たず、入会するのを待たされるありさまです。

こういった所で会う人たちは全くの他人です。しかし、共通の「濃い」趣味の関係がある他人です。このように、望めばどのような趣味の人とも知り合う機会を持つのが現代です。こういったパターンを同窓会で活かすことができるとかどうかが今後の発展の鍵だと思っっています。

古川市内四校合同新年会報告

校 新年の集



二宮校長

第十回目を迎えました今回
は、本会が幹事校として企画・
運営を担当し、一月十九日(日)
上野精養軒で開催されました。
講演にはNHKアナウンサー
出身の佐々木敦氏(古高三十
七年卒)をお招きしました。

昨年よりもかなり多くの方から
出席の申し込みがあったのですが、
開催日当日が大変寒かったことが
影響したのでしょうか、当日にな
って欠席される方が多く、四校全
体では、ほぼ昨年と同じ出席者数
でした。

しかし、他の三校が人数を減ら
した中、本会だけは昨年よりも出
席者が十五名増となり、昨夏の総
会が、今までの実績で最低の出席
者だっただけに、重い気持ちで払
拭された感がありました。

会場には今年も、大正十五年卒
の師大先輩がお見えになっておら
れましたが、これからもますます
お元気で、白寿のお祝いが待たれ
ます。



講演の佐々木敦氏

総会の部では、幹事校である本
会の三浦会長、四校学校長、本部
同窓会長、来賓の挨拶のあと、記
念講演には、古高卒でNHKアナ
ウンサー出身の佐々木敦氏をお迎
えしました。

講演のテーマは、「日本語を声
に出して読む」ことをめぐって」。

昨今の「日本語ブーム」にあやか
り、今回の企画となりました。今
月も、万葉集、昔話、童話、金子
みすゞの作品など、美しい日本語
を俳優たちが表情豊かに読み上げ
るCDが相次いで発売され、ブー
ムは続いているようです。

講演では、「標準語」いわゆる
「共通語」誕生から育ちの経緯や、
アクセントの変化による言葉の意
味の違いなどが語られたあと、「公
的な場所では共通語を、気のあつ
た仲間や地域の人達とは自分の言
葉(母なる言葉・方言)で」つま
り「二カ国語(バイリンガル)を
喋れるということになれば、言語
生活は二つの世界にまたがり、誠
に豊になる」
そういえば私、学四年生のと

川市内 四校新



左から、佐藤関西会長、三浦在仙会長
本部事務局 早坂先生、野村同窓会長

き、旧満州から引き揚げてきて瀬
峰駅に降り、ちょうど下校中だつ
た同年代の子どもたちが喋ってい
る会話を聞いて本当に驚いたもの
でした。それは今まで聞いたこと
もないような外国語に聞こえたか
らです。

その後、学校を含めた日常生活
でも「硯(すずり)」と「七輪(し
ちりん)」を聞き間違えたり、「ぬ
んど芋」と言われても、それが何
なのか分からなかったりと、日常
会話には大変苦労したものでした。
その当時は、それが二カ国語で生
活していた様なものだったのかも
しれません。

また、佐々木氏は「方言でも、
美しい言葉、残したい言葉は自然
に湧きあがって共通語にしてしま
えばよい、言葉を新しくつくるの
も文化である」と、結ばれました。

これからは私達も、ふる里の
「残したい言葉」を大事に育て、コ
ミュニケーションも増やしていき
たいものです。(曾根)

第10回四校合同新年会 古高出席者名簿

〔来賓〕(5名)

- 二宮 景喜(学校長) 野村喜太郎(同窓会長 S18) 早坂 勇(同窓会事務局 S53)
三浦 良(在仙会長 S24) 佐藤 正幸(関西蛭雪会会長 S39)

〔会 員〕(84名)

- | | | | | | |
|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|---------------|
| 大15 師 勝夫 | 昭25 伊藤 隆俊 | 昭27 春田 紘輔 | 昭30 門脇喜代志 | 昭31 石堂十六男 | 昭36 児玉 隆行 |
| 昭9 伊藤 守治 | 工藤英三郎 | 昭28 高橋 慎一 | 門脇 敏明 | 熊谷 正俊 | 松崎 仁也 |
| 昭18 大家 吉夫 | 鈴木一太郎 | 中川 裕雄 | 岸 康男 | 長井 弘策 | 水上 武彦 |
| 加藤 茂 | 中川 精二 | 早坂 明久 | 佐々木英三 | 昭32 佐々木勝也 | 我妻幾久寿 |
| 豊嶋 紘三 | 昭26 遠藤 惇 | 渡邊 道雄 | 佐々木清七 | 佐藤 公哉 | 昭37 佐々木 敦(講演) |
| 渡辺 三男 | 佐々木達夫 | 昭29 佐藤 郁郎 | 佐藤 忠良 | 佐藤 満行 | 中鉢 泰平 |
| 昭20 熊谷 虎夫 | 鈴木 桂吾 | 佐藤 茂 | 佐藤 寿哉 | 水上 忠彦 | 昭38 阿部 重人 |
| 高橋 昭典 | 谷地森 税 | 佐藤 廣 | 佐藤 久 | 昭33 大友 正行 | 高橋 忠世 |
| 前田浩五朗 | 昭27 太田 徹 | 中島 五郎 | 曾根 研一 | 佐々木光一路 | 昭39 上野 正司 |
| 森谷 侑一 | 今野 健 | 早坂 清吉 | 高橋 広 | 高橋 俊裕 | 昭41 高橋 秀之 |
| 横山 榮治 | 斉藤林寿郎 | 福富 啓祐 | 平野 武 | 森谷 拓夫 | 昭51 野田 雅彦 |
| 昭24 門脇 健 | 佐藤 清勝 | 昭30 相原 相 | 師山 政夫 | 昭34 宍戸 志智 | 早坂 時男 |
| 三浦 澄能 | 田口 朝一 | 阿部 一彦 | 渡辺 吉郎 | 昭35 岩崎 光任 | 昭55 亀井 明 |
| 昭25 荒井 隆 | 中森 高 | 岩城 光将 | 昭31 石川 勝夫 | 佐々木武磨 | 平 8 那須野宗隆 |

私生活による自由投稿

私の卓球人生(その3)

26年卒 角田 啓輔

6 社会人の三年間

(昭和二十六年 ~ 二十八年)

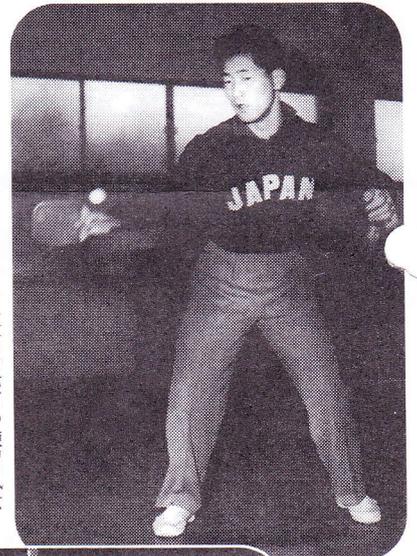
(1) 就職

東京荒川区に「アームストロング株」という卓球用具専門の製造販売会社があった。株式会社とはいえ、まったくの個人経営の同属会社で、ここに住み込みで入社することにした。初任給は食事付きで月二千円だった。

この会社は、卓球用品の製造販売のみならず、山手線の日暮里駅前に「東京卓球会館」という卓球コート五台を常設した競技場も経営していた。この会館の二階六畳間が私のねぐらである。本会館は交通の便利さもあり、大学の合同練習や都内の一流選手等に幅広く利用されていたので、練習相手に恵まれ卓球の腕を磨くには最適な場所であった。

しかし、一方仕事は決して楽ではなかった。朝五時半に起き上がり、会館の床の拭き掃除から始まる。朝食後は全国各地へ用品発送のための荷造り作業と、都内運動具店への配達業務等々。

一番きつかったのは卓球台の運搬だった。自転車の後ろに取り付けたリヤカーに、二台分の卓球台を積んで、日暮里から向島までの間を往復する作業が大変だった。特にその間に隅田川があり、言問



アジア大会出発前の練習風景 (昭和二十七年十月)



橋の上りがきつくと真冬でも汗をかいた。

しかし、この作業も慣れるにつれて段々楽になってきた。むしろ運動選手としての基礎体力の増強に格好のトレーニングになると思える様になった。物は考えようである。仕事が終わり、早めの夕食を済ませて卓球の練習に励む。練習相手に不自由しない、周りには私より強い人がゴロゴロおり、腕を磨くには好条件が揃っていた。就職して最初の試合が全日本選手権大会の東京都予選だった。シングル、ダブルス、混合ダブルスの三種目に出場して三種目共に優勝して予選を通過することができた。続く全日本大会もシングルは準決勝で敗れたが、ダブルスで優勝する事ができた。

(2) 初めての国際試合

日本卓球協会は、昭和二十六年にインドのボンベイ市で開催された世界卓球選手権大会に、戦後初めて選手団を派遣した。その結果七種目中三種目(男子単、複、女

子団体)に優勝して世界をあっと驚かせた。

日本が出場する以前は、英国やハンガリー等ヨーロッパ勢が圧倒的に強く、特に英国のバグマン選手は世界選手権六回優勝の記録保持者であり、ほとんど無敵に近い戦績を残して居った。そのバグマン選手がダブルスのパートナーであるリーチ選手を伴って翌二十七年に来日して、日本各地で国際試合を行った。私は出身地宮城県という事で仙台大会に出場させてもらいバグマンと最初のトップで対戦した。

勿論勝てないが、何本取れるか? 少なくとも十五~六本ぐらいは何としても取りたいと思った。しかし対戦してみると思ったほどでもない。最初の一セットは、十八対二十一と善戦できた。二セット目以降はまったくのシーソーゲーム、一本を争う展開となる。バグマン選手は、シェークハンドグリップでカットを主体にした鉄壁の守備を誇る選手で、打てども打てども返球され、まさに壁と対

峙しているようであった。左右両サイドを攻撃して最後に身体の真中めがけてスマッシュする事に徹底して二十一対十九で勝った。最終三セット目も左右と前後にゆさぶりを掛けて、ジュース、アゲンを繰り返して、大接戦の末、二十四対二十二で勝つことができた。当時の無敵を誇る日本チャンピオンの、藤井則和選手でさえ勝てなかったバグマン選手に勝ったなんて、まったく夢のような気がしてならなかった。結局バグマン選手は三十数回の日本国内の試合で、私に一敗を喫したのみだった。

(3) 初めての海外試合

昭和二十七年十一月に第一回アジア卓球選手権大会が開催された。その時に英国のバグマン選手を破った実績を認められて、前年インド、ボンベイで行われた世界選手権シングルの覇者、青森の佐藤博治、ダブルスの覇者神奈川の林忠明、それに山口出身女子の田中良子選手等総勢六名が日本代表として出場することになった。私にとっては初めての海外遠征試合である。私達は出発に先立ち、洋食の食べ方や海外でのマナー等々の講習を受けさせられた。

シンガポールまでの旅程は、オランダ船籍の五千五百トン貨客船「チサダネ号」での船旅で、出発は神戸港からであった。神戸港を出港した舟は、瀬戸内海を順調に通過して航海が開始された。私達は出発前の準備に追われて、いささか練習が疎かになっていた。幸い船内には卓球コートが二台有り、早速練習を開始した。丁度その頃、瀬戸内海を通過した船は外洋に出

始めていた。外洋に出た途端、船のローリングが激しくなり、フットワークを効かせてボールを打とうとすれども、身体は動かず、逆に動こうとした瞬間にその方向に傾くと、その勢いで身体がデッキの側まで飛んで行く有様で、全然練習にならず、むしろ逆にコンデিশョンをわざわざ悪くする始末であった。それに加えて私にとつて初めての洋式トイレは、便座に座ってもなかなか用がたせず、汗だくで苦闘した事も、今では懐かしい笑い話である。

一週間の船旅で寄港地の香港に到着する。香港で下船した私達は、その夜公会堂にて香港卓球協会主催の地元香港チームとエキジビションマッチを行い、晩餐会の後、香港大飯店に一泊する。

翌日香港を出航した船は、一路シンガポールへ向かうと思いきや、ボルネオ島に向かうと聞き驚いた。目の前に目的地のシンガポール島を眺めながら、通り過ぎて行くもどかしさ。聞く所によると本船は貨客船であり、日本からの鋼材を積んでおり、それを下ろしてからシンガポールに行くのだそうである。人間様よりも資材の方が優先するのだから、いささか心外だった。それに大会開催日まで間に合うの心配であった。そんな事もあるって香港、シンガポール間も一週間かかり、結局試合にはギリギリ間に合ったが、神戸港からシンガポールまで都合二週間を要した。現在では航空機で数時間のところであり、今思うとまさに隔世の感がある。

(以下次号)

古中二十三・古高二十四年卒の「在京ぎやろつぱ会」24年卒 門脇 健

戦時下の昭和十八年に宮城県立古川中学校に入学してから六十年。旧制古中を二十三年に、また新制古高を二十四年に卒業した同期の集いが去る二月五日昼、東京駅大丸デパート八階の中華料理店「鳳鳴春」に十九名(うち二名は古川から直参)の参加をえて賑やかに開かれました。

この「同期」は、日中戦争の始まった昭和十二年に小学校に入り、太平洋戦争の戦局が厳しくなった十八年に古中に入學したもの勤労働員に明け暮れて、中学三年で敗戦!!!

戦後は学業はそっちのけに食うこと、生きることに精一杯のまま、とにかく二十三年に旧制古中、二十四年に新制古高を卒業した者たち。

以後、日本の再建・復興、経済立国・発展のために働き、学び、汗をかき続け、いわば「激動の昭和」の申し子のような世代人ですが、「古希を過ぎ、「歳々々々 人同じからず」を実感する年頃とあって、とにかく元気なうちに会ってみよう」と呼びかけ実現したもの。

それだけに、五十年ぶりに感激の再会を喜ぶ人、在校時の青春談義に花を咲かせる人、老いて?ますます盛んな人などなど、二時間半の予定時間はあつという間に過ぎ、記念写真を撮り、決めごとを話し合い、今秋には十五年度の総会兼懇親会を開くことなどを予定して散会した次第。

名称は「在京ぎやろつぱ会(通称、ぎやろつぱ会)」、会員は二十三年古中・二十四年古高卒の在京者並びに賛同者、世話人の任期は二年の交替制とし、今回の呼びかけ人であった三浦澄能、菅昇、門脇健の三人がその業に当たること。...

※「ぎやろつぱ会」縁起。ぎやろつぱとは雑草の大葉子(おおはこ)のことで、激動・苦難の時代に生きてきた私達とビタリと合うということを決まる。

【参加者】我孫子静夫、石井達郎、伊藤敦、大金昭夫、門脇健、菊地郁夫、熊谷文男、今野敏、斉藤馨、斉藤弘、佐藤浩朗、菅昇、鈴木大吉、早坂悌、半田慶男、三浦澄能、三浦敬三の各氏。

なお、古川から直参し錦上花を添えてくれたのは佐藤欽一、渋谷喜光の両氏でした。



ぎやろつぱ会の面々

関東地区古高三期会開催 26年卒 谷地森 税

去る四月二十五日(金)大森東急イン宴会場において、関東地区古高第三期会が例年のとおり開催されました。全員が古稀を過ぎた今年は、前年出席の十八名を下回り十四名でしたが、三時間の宴会では近況の報告や、校歌、応援歌等で五十年をタイムスリップし青春時代に若返りし大いに氣勢を上げ盛り上がりしました。

三期生は古川、仙台、関東地区と点在し、関東地区には現在四十五名の会員が住んでおりますが、現在も現役で活躍している会員が約二十名おります。同期会は毎年古川、仙台、東京の三カ所それぞれ開催しております。なお、三年ごとに全体の同期会を開きますが、今年古川の番だと連絡があり、東京からも多くの同期生が出席を予定しております。

母校へ 近況によせて

27年卒 春田 絃輔

今年で十回目となった古川市内四校新年会という催しがある。今年、一月十九日上野精養軒で約三百人が参加して盛大に行われた。

この会では、古高、古女、古工業、古商業の四校の校長と同窓会長及び来賓が古川から出席して、母校の近況を説明してくれます。その中で、最近極めて元気がいいのが古川商業です。女子バレーボールで全国優勝十回というものも

立派ですが、何といってもその進学実績です。そして会場で配る実績表はその努力と成果に自信があふれています。

私達古高OBは圧倒されて声も出ないのが実態であります。そして、この会を通して母校をとりまく厳しい環境をひしひしと感じながら時代の変化を実感しております。

私達在京古高同窓会は、関東周辺に約二千名が在籍し、情報圏には約千名の方々が居られます。いずれの方々も古高の良き時代に卒業された方々ですから、この現状については驚くばかりであろうと思えます。

高校の評価はどうあるべきかについていろいろあつて、まず進学実績だけで評価するのは誤りであるという言い分があります。しかし、古高は実業専門学校ではないから、ほとんどの生徒が進学目標を置いて入学したとみるべきであります。しかし、結果としてそういう期待に対し、学校はどう答えているのかという疑問が残ります。

かつて古高は地域の進学校として確実な実績を誇ってきました。しかし、今その実績はありません。音楽コンクールで優勝したとか、感想文で文部大臣賞をいただいたとかいう明るい部分もないわけではありませんが、本来の目的とする分野でそれを示して欲しいのです。

現状に至った経緯には、いろいろな原因があつたことと思うが、まずは、地域の人材を磨ききれなかったことに対する信頼の喪失が*

択してもらえなかったことによると考えざるを得ない。

ここでスポーツの例を考えてみたい。優れた実績は、ほとんど指導者次第である。お隣の女子バレーボールの実績について異を唱える方がいたら聞かせてもらいたい。またさらに思うのは、進学とは競争に勝つことである。高橋尚子選手の場合でも分かるように、競争に勝つために払った指導者の努力がいかに大きかったか。

かつて、競争を嫌う教育集団があつて、全員同時ゴールさせ偉大な教育の成果として発表した事例を聞いたことがある。私が所属してきた社会で、競争のない世界はなかった。競争のない世界は必ず墮落し、退廃する。教育の世界にそんな現実離れの思考が残っているとは思いたくないが、進学という競争の現実をどのように認識しているのか伺いたい気持ちである。

競争は或る意味で過酷な面を持つが、そこで磨かなかつたらただの石で終わってしまう。磨いてくれないところへ宝石を持って行く人はいない。今、古高の磨きのプロセスはどうしているのか、実力発揮できない状況があるのか。そして宝石を受注できるような信頼を回復する努力をしていただきたいものと思えます。

最後に、人格形成の過程で伝統というものが大きく影響する例を多く見てきた。地域の人材がもてる能力に伝統を加味できる環境を提供するのが私達の使命であると思う。ぜひ皆さんと一緒に母校の発展を祈りたい。

森谷建設株式会社

代表取締役 森谷 侑一
昭和20年卒

〒336-0923 埼玉県さいたま市大字大間木2395
TEL 048-874-2610

税理士 青沼康男

不動産鑑定士

(昭和19年卒)

〒108 東京都港区芝4-6-16 ライオンズ三田805-0014
TEL 03-3452-2004
FAX 03-5476-8006

餓鬼の頃を思えば今は極楽

積水工業株式会社

空調・衛生・電気工事

S28卒 取締役会長 金子 康

本社 目黒 (03)3793-5711 仙台支店 (022)235-7009

“アウトソーシングを支援する”

パルスタッフ株式会社

代表取締役 渡邊 道雄
会長

S28年卒 (鹿島台町)

本社 〒160-0002 東京都杉並区高円寺北1-4-10
TEL 03-5343-5821 FAX 03-5343-5822
立川営業所 (042-528-8585) 神奈川営業所 (0462-77-0791) 甲府営業所 (0551-21-2046)
E-mail: m.watanabe@palsbk.co.jp

ケーヨーは情報化時代の未来を拓くパートナーです。
文書・図面・写真・音声・映像を簡単にC-D-R-O-Mにします。

データベースの入出力・活用 デジタル変換
コピーサービス 総合印刷 CAD入出力
文字情報入出力 プリペイドカード



代表取締役会長 早坂 清吉 (昭和29年卒)
本社 〒103-0023 東京都中央区日本橋本町4-1-6 TEL03-3242-0191
横浜支店・千葉支店

日曜大工園芸用品卸 貸ビル、貸マンション業

株式会社 佐々木商事 代表取締役
株式会社アクアベンドジャパン 代表取締役副社長
株式会社キャッスル丸森 代表取締役専務

佐々木 光一路 (昭和33年卒)

〒144 東京都大田区南蒲田1-1-21 佐々木ビル-0035 第一京浜国道沿い 京急蒲田駅前
電話 (3739) 2468
FAX (3732) 7700
HOT Line 090 3202 6393

HUMAN USER COMPANY

HUSER

住居・福祉・エンターテインメント

「スカイプラット31」オープン!
110㎡マンション展望ギャラリー

東京駅徒歩1分の夢展望台

SKY PLAT 31

東京駅八重洲南口31階に誕生!

OPEN 10:00 CLOSE 22:00

フリードリンクサービス・ネット検索コーナー

株式会社ヒューザー 代表取締役 小嶋 進 (古高47年卒)

〒100-6231 東京都千代田区丸の内1丁目11番1号

パンフィックセンチュリープレイス丸の内31階

☎03-3284-0123 FAX03-3284-0120

URL <http://www.huser.co.jp> E-mail: info@huser.co.jp

特定非営利活動法人

日本刀剣保存会

みやのていじ
理事長 宮野 貞司

S34年卒

〒142-0053
東京都品川区中延3-13-17
TEL・FAX 03-3782-5326

佐藤 啓三

(S40年卒 中新田)

中小企業診断士・ISO審査員・エネルギー管理士

KGK ISO (品質・環境)・技術・経営
コンサルティング・グループ
株式会社 経営技術機構 所属

〒105 東京都港区虎ノ門5-3-20 仙石山アネックスビル1階-0001
TEL 03-5425-2491 FAX 03-5425-2492
自宅 〒241-0004 横浜市旭区中白根2-22-19
携帯 090-1438-9132 E-mail FZN04730@nifty.ne.jp

会員消息

高橋 俊裕氏 (33年卒)
日本郵政公社
副総裁に就任

富永中学を経て昭和三十三年古高卒。東京大学法学部卒業後トヨタ自動車販売に入社し、人事部長、常務取締役を経て東京トヨベツト(株)社長、トヨタアドミニスタ(株)社長を歴任。本年4月発足した日本郵政公社初代副総裁に就任されました。

「高校時代の高橋君は、特に目立った存在ではなかったが、成績はいつも上位で、しかも、とても人なつこく、誰からも好かれる人柄で、東北人らしい茫洋とした印象があります。」(同級生談)。
トヨタ方式を取り入れたこれからの公社の運営に、その手腕が大いに期待されております。

平成 15 年度定時総会講演講師

小嶋 進氏
(株)ヒューザー代表取締役



プロフィール

- 昭和28年 色麻町生まれ。
- 昭和47年 古川高校卒業後、仙台、東京において不動産会社等に勤務。
- 昭和57年 28歳で大田区に恒和不動産(株)を設立、資本金500万円、年間取扱高8.4億円。
- 昭和58年 (株)マンション流通センターに社名変更、年間取扱高10億円。
- 昭和60年 (株)ハウジングセンターに社名変更、年間取扱高151.8億円。
- 昭和62年 資本金1億円に増資、年間取扱高148.2億円。
- 昭和63年 経営方針を仲介から企画開発分譲へ移行、年間取扱高76.3億円。
- 平成 8年 本社を世田谷区三宿に移転、年間売上高45億円、供給戸数123戸。センチュリー-21加盟店国内第1位、世界第2位を達成。
- 平成10年 年間売上高43億円、供給戸数108戸。センチュリー-21加盟店個人の部世界第1位、日本第1位。
- 平成13年 (株)ヒューザーに社名変更、年間売上高87億円、供給戸数208戸。平均専有面積3年連続日本一を達成。
- 平成14年 本社を世田谷から丸の内に移転、年間売上高110億円、供給戸数225戸。

専有面積100m²超にこだわるマンションのデベロッパーとして、今後はさらに、平均面積の目標を110~120m²に引き上げる。

趣味は、自家用飛行機の操縦桿を握り、世界の空を飛ぶこと。

原稿のお願い

- 近況、消息(転出入、栄進、葬祭等)
- 感想、随想、提案、意見、企画
- 同期会
- 紀行文(国内、海外)
- 広告(会の重要な財源)
- 趣味、特技

以上の項目に限らず、歓迎いたしますので遠慮なく記事をお寄せ下さい。できましたら電子メールで原稿をいただけますと最高にありがたいです。

送付先 〒26310043

千葉市稲毛区

小仲台9-18-13-406

亀井 明

電話・FAX 043-220612350

電子メール zeppein@mx7.tcn.ne.jp

元在京古高同窓会会長
半田実顧問のご逝去を悼み

副会長 春田 絃輔



平成十四年十二月十四日(土)早朝、半田実顧問が膀胱ガンで逝去されました。

七十三歳でした。半田顧問は昭和二十二年旧古中四十七回卒で、

最近では、本会報第二十八回(十四・二二)に「私の柔道一代記」を寄稿されたことで、皆さんのご記憶にも新しいことと思います。

半田さんは、在京古高同窓会にはいつも役員会を始め、総会には欠かさずご出席され、特に平成十二年・十三年総会には議長として名采配を発揮されたばかりであります。

そして、最近の若い方にはあまり知られておりませんが、昭和四十六年から十年間、私の知る限りでは最も古い会長、北浦太一さんから請われて四十歳代で二代目(?) 同窓会長をされました。今日

の在京古高同窓会の基礎は半田会長時代に築かれたとも云えると思います。

半田さんといえば、あの強面で柔道一代の半田として全国的にいろいろな分野で有名であります。しかしその中であつても古高同窓会に対する情熱は強烈で、昨半夏の総会には病床から奥様連転の車で駆けつけるほどの力の入れようでした。そして、将来を見据えた卓越した洞察力と決断力はかけがえのない存在でありました。

在京古高同窓会としては伊藤先輩に続いて半田先輩も失うということになり大変残念であります。ここに半田さんの在京古高同窓会に対する御尽力とご功績に対し、深く感謝申し上げ、心からご冥福をお祈り申し上げます。

編集後記

総会につきましては酷暑の時期をはずしたほうが、参加者にとって負担が少なくなるという発想からの決定ですが、梅雨の時期でもありますし、今度は天気のことを心配しなければならなりません。

なかなか全ての点でベストな時期というは難しいのかもしれない。総会の一ヶ月前倒しの関係上、「蛭雪」も、従来のスケジュールと

違い全てが一ヶ月前倒しです。原稿の依頼が、通常であれば

連休明けから始めても余裕だったのですが、今回は連休前に手配してもギリギリのスケジュールとなり、肝を冷やしました。幸い印刷をお願いしておりますキーヨーさんのご協力により、何とか予定どおり5月31日の発送にこぎつけることができました。一安心といったところです。

次号につきましては、プロの編集者に相談し、デザイン等も含めまして若干の紙面のリニューアルを行なう予定です。ご意見等ありましたらお寄せください。

(亀井)